

外為マンスリービューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2012/07/02

メインは欧州から景況感に移るか

通貨ペア	基調		ページ数
<u>豪ドル/円</u>		RBA理事会に注目	2-3
		予想レンジ: 78.20 ~ 84.50 円	
<u>NZドル/円</u>		RBNZの声明から手掛かりを探る	4-5
		予想レンジ: 62.20 ~ 66.80 円	
<u>ランド/円</u>		SARBの次の一手を見極め	6-7
		予想レンジ: 9.30 ~ 10.50 円	

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



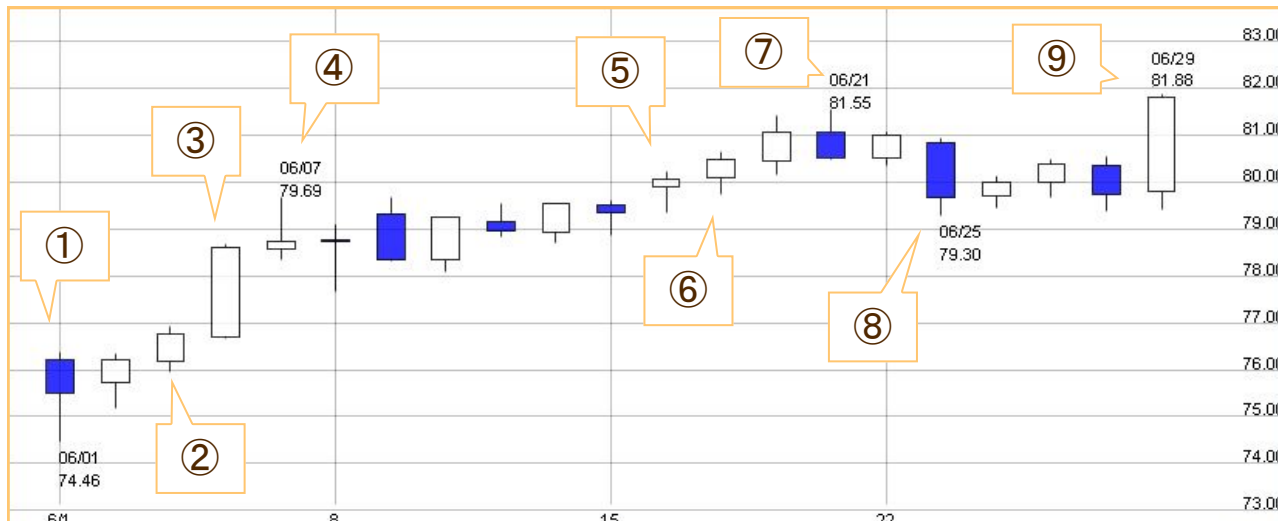
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

AUD / JPY

豪ドル/円 6月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	76.21円	81.88円	74.46円	81.80円



- ① 1日、米5月非農業部門雇用者数が6.9万人増と予想を大きく下回り、時間外のNYダウ平均先物や欧州株が急落すると、豪ドル/円は74.46円の安値を記録。しかし、直後にドル/円が1円以上急騰すると、連れて76.10円まで反発するなど、値動きの荒い展開となった。
- ② 5日、豪準備銀行(RBA)が政策金利を発表する直前、大幅利下げを警戒した豪ドル売りが入り、豪ドル/円は76.08円まで急落。しかし、RBAが事前の予想通り0.25%の利下げを発表すると買戻しが優勢に。日経平均株価の堅調推移も重なると、76.85円まで値を上げた。
- ③ 6日、豪第1四半期国内総生産(GDP)が前期比+1.3%、前年比+4.3%と予想(0.6%、3.3%)を上回った。これを好感して豪ドル/円は急騰。日経平均株価の上昇もあり、1円弱の急騰を演じた。
- ④ 7日、豪5月失業率は市場予想と同じ5.1%だったが、新規雇用者数が常勤雇用者数の増加を理由に3.89万人増と、予想(0.00 万人増)を上回った事を好感して、豪ドル/円は79.06 円まで急騰。その後中国人民銀行が政策金利の0.25%引き下げを発表し、中国景気の下支え期待が浮上。更にバーナンキ米FRB議長の議会証言前、何らかの追加金融緩和策が打ち出されるとの期待を背景に株高が進むと、79.69 円まで一段高となった。しかし、議長は追加緩和の具体策については示唆しなかったため、緩和期待が後退すると豪ドルは反落した。
- ⑤ 18日、ギリシャ再選挙で緊縮財政推進派の勝利が確実となった事を受け、同国のユーロ離脱懸念が後退すると、豪ドル/円は前週末終値から50銭以上上昇してスタートした。
- ⑥ 19日、RBA議事録が公表され、「6月の利下げはきわどい判断」との文言を好感して豪ドル/円は小幅に値を上げるも、「金融政策は若干より刺激的となる余地がある」等、追加緩和を示唆した事を嫌気して反落した。
- ⑦ 21日、比較的好調だったスペイン国債入札を背景に欧州株が上昇すると、豪ドル/円は81.55円まで値を上げるも、予想を大きく下回る米6月フィラデルフィア連銀景況指数や格付け会社ムーディーズによる欧州金融機関の格下げ懸念を背景にNYダウ平均がマイナス圏に沈むと、豪ドル/円は反落した。
- ⑧ 25日、格付け会社フィッチがキプロスの格下げを発表。メルケル独首相が欧州共同債導入に否定的な見方を示した事も重なり、欧米株が大きく下落。これを受け、豪ドル/円は79.30円まで値を下げた。
- ⑨ 29日、EU大統領の「欧州首脳はスペインの融資に関して返済の優先権を放棄」との発言を好感してアジアからNY市場にかけて株高が進むと、豪ドル/円は5月4日以来となる81.88円の高値を記録した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

AUD / JPY

今月のポイント

6月の豪ドル/円相場は74.46円～81.88円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約7.3%の上昇(豪ドル高・円安)となった。ギリシャの再選挙やスペインの銀行問題が一服した事を背景に、欧州債務懸念が和らいでリスク回避の動きが後退すると、月後半にかけて上昇した。

これにより、今月は各国の景況感や政策金利格差に市場の関心が集まる可能性がある。その中でも米6月雇用統計や、米国や中国の第2四半期国内総生産(GDP)に注目であり、米中の景況感に改善の兆しが見られるようだと、リスクを積極的に取る動きから豪ドル/円は買われやすいと見る。

一方、豪国内を見ると、先月発表された経済指標(豪5月雇用統計や第1四半期GDPなど)が相次いで予想より強い内容となり、RBAの利下げ観測が後退。今月3日のRBA理事会では金利据え置きが広く予想されている。仮に利下げとなれば教科書通り豪ドル売りが優勢となりそうだが、金利は据え置かれる場合は声明文に注目が集まりそうだ。その場合、ハト派色が後退すれば豪ドル買い、世界景気の見通しに慎重な見方を崩さず、今月25日の豪第2四半期消費者物価指数次第では利下げの可能性を示唆するようならば、豪ドル売り優勢の展開が予想される。

RBA理事会と合わせ、4日の英中銀(BOE)と欧州中銀(ECB)理事会にも注目したい。仮にRBAが金利を据え置く一方でBOE/ECBが追加金融緩和に踏み切るようならば、政策金利格差から豪ドル買いが優勢となる事も考えられる。(川畑)

(予想レンジ: 78.20～84.50円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

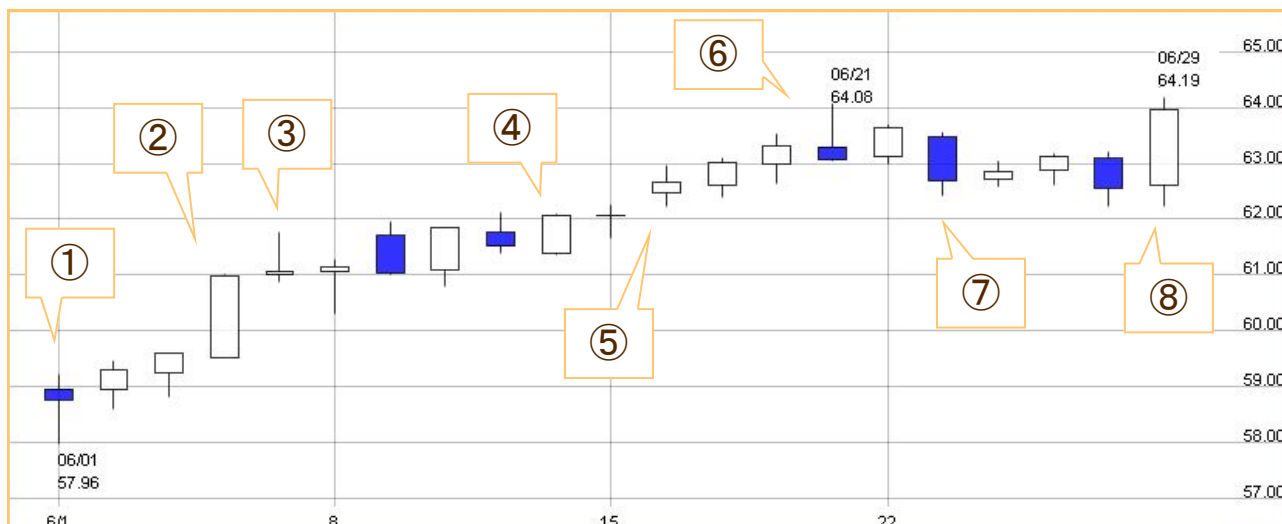
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
7/2(月)	6月米ISM製造業景況指数	7/10(火)	6月中国貿易収支
7/3(火)	5月豪住宅建設許可件数	7/11(水)	米FOMC議事録(6/19・20日分)
	RBAキャシュターゲット	7/12(木)	6月豪雇用統計
7/4(水)	5月豪小売売上高		日銀金融政策決定会合(11日～発表)
7/5(木)	5月豪貿易収支	7/13(金)	第2四半期中国GDP
	BOE政策金利発表		7月米ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
	欧州中銀金融政策発表	7/16(月)	6月米小売売上高
	6月米ADP全国雇用者数	7/17(火)	RBA議事録
	6月米ISM非製造業景況指数		米地区連銀経済報告(ページブック)
7/6(金)	6月米雇用統計	7/20(金)	第2四半期豪輸入物価指数
7/9(月)	5月日貿易収支	7/23(月)	第2四半期豪生産者物価指数
	6月中国消費者物価指数	7/25(水)	第2四半期豪消費者物価
	ユーロ圏財務相会合	7/31(火)	6月豪住宅建設許可件数

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

NZD/JPY

NZドル/円 6月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	65.29円	65.58円	58.68円	58.97円



- ① 1日、米5月非農業部門雇用者数が6.9万人増と予想を大きく下回り、時間外のNYダウ平均先物や欧州株が急落すると、NZドル/円は57.96円の安値を記録。しかし、直後にドル/円が1円以上急騰すると、連れて59.21円まで反発するなど、値動きの荒い展開となった。
- ② 6日、ロックハート・米アトランタ連銀総裁やドラギ欧州中銀(ECB)総裁の発言を受け、米欧の金融緩和観測が浮上。これを受けて欧米株が上昇すると、NZドル/円は61.02円まで値を上げた。
- ③ 7日、バーナンキ米FRB議長の議会証言前、何らかの追加金融緩和策を打ち出すとの期待を背景に株高が進むと、NZドル/円は61.77円まで上昇。しかし、議長は追加緩和の具体策については示唆しなかったため、市場では米国の緩和期待が後退してNZドルは反落した。
- ④ 14日、NZ準備銀行(RBNZ)は市場の大方の予想通り、政策金利の据え置きを発表。声明では経済見通しの低迷などを指摘した事を受け、NZドル/円は61.35円まで下落。だが、目先の利下げについては言及しなかった事などを手掛かりに61.58円まで急反発するなど、やや値動きの荒い展開となった。
- ⑤ 18日、ギリシャ再選挙で緊縮財政推進派の勝利が確実となった事を受け、同国のユーロ離脱懸念が後退すると、NZドル/円は前週末終値から40銭以上上昇してスタートした。
- ⑥ 21日、NZ第1四半期国内総生産(GDP)が前年比+2.4%と、市場予想(+1.3%)や、15日に発表された国際通貨基金(IMF)の予測(+2.3%)を上回った。これを受けてNZドル/円は約40銭の急騰となった。その後、比較的好調だったスペイン国債入札を背景に欧州株が上昇すると、64.08円まで一段高となった。しかし、予想を大きく下回る米6月フィラデルフィア連銀景況指数や格付け会社ムーディーズによる欧州金融機関の格下げ懸念を背景にNYダウ平均がマイナス圏に沈むと、NZドル/円は反落した。
- ⑦ 25日、独メルケル首相が28-29日に開催されるEU首脳会議について「EU関係者がユーロ圏債務危機解決に向けて『安易な』対策の導入を期待している点に懸念を示している」と発言すると、ユーロ/円の下げ主導でNZドル/円は下落した。
- ⑧ 29日、EU大統領の「欧州首脳はスペインの融資に関して返済の優先権を放棄」との発言を好感してアジアからNY市場にかけて株高が進むと、NZドル/円は5月4日以来となる64.19円の高値を付けた。

NZD / JPY

今月のポイント

6月のNZドル/円相場は57.96円～64.19円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約8.5%の上昇(NZドル高・円安)となった。ギリシャの再選挙やスペインの銀行問題が一服した事を背景に、欧州債務懸念が和らいでリスク回避の動きが後退すると、月後半にかけて上昇した。

これにより、今月は各国の景況感に市場の関心が集まる事が予想され、その中でも米6月雇用統計や、米国や中国の第2四半期国内総生産(GDP)に注目したい。米中の景況感に改善の兆しが見られるようだと、株高を背景にNZドル/円は買われやすいと見る。一方で予想を下回るものが多く、株安が進行する場面では、リスク回避の動きを背景にNZドル売りが優勢となろう。

一方NZ国内では、26日の金融政策発表について、市場では金利据え置きが広く予想されている。仮に金利が据え置かれる場合、同時に発表される声明にて、利上げ開始時期についてヒントが与えられるか注目したい。欧州債務懸念の一服などを背景に、前回の声明文で示唆した2013年半ばよりも前に利上げを開始するとの見方が広がれば、緩和的な金融政策を続けている主要国(日米欧など)に対して金利差が拡大するとの観測からNZドル/円は強含みの展開が予想される。(川畑)

(予想レンジ: 62.20～66.80円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

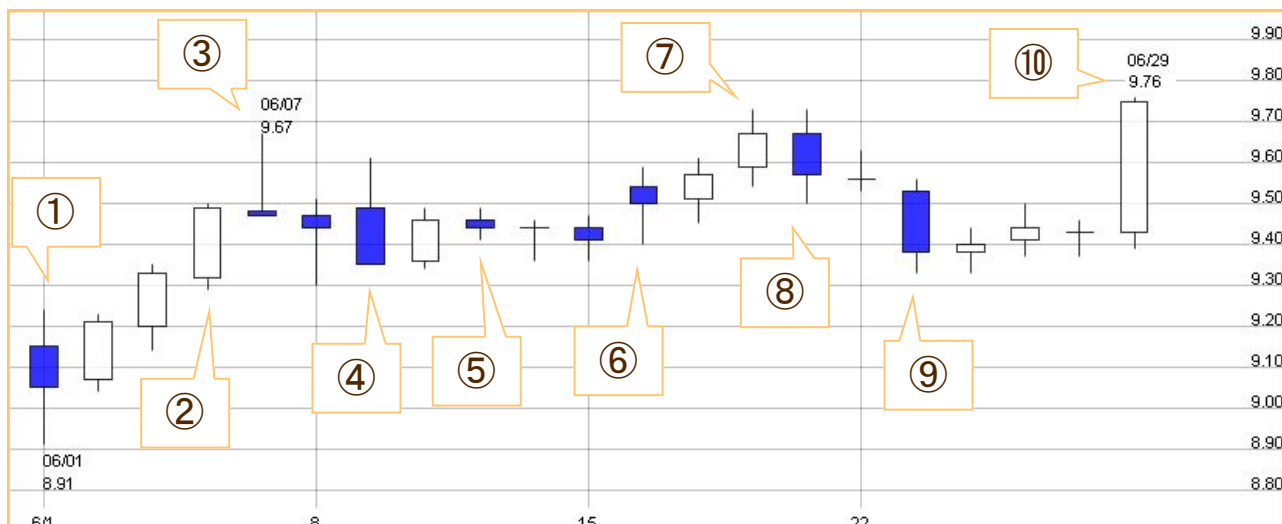
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
7/2(月)	日銀短観	7/11(水)	米FOMC議事録(6/19・20日分)
	6月米ISM製造業景況指数	7/12(木)	日銀金融政策決定会合(11日～発表)
7/3(火)	RBAキャッシュターゲット	7/13(金)	第2四半期中国GDP
7/5(木)	欧州中銀金融政策発表		7月米ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
	6月米ADP全国雇用者数	7/16(月)	6月米小売売上高
	6月米ISM非製造業景況指数	7/17(火)	第2四半期NZ消費者物価
7/6(金)	6月米雇用統計		米地区連銀経済報告(ページブック)
7/9(月)	5日日貿易収支	7/25(水)	6月NZ貿易収支
	6月中国消費者物価指数	7/26(木)	RBNZオフィシャル・キャッシュレート
	ユーロ圏財務相会合	7/30(月)	6月NZ住宅建設許可
7/10(火)	6月中国貿易収支		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

ランド/円 6月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	10.24円	10.43円	9.13円	9.17円



- ① 1日、米5月非農業部門雇用者数が6.9万人増と予想を大きく下回り、時間外のNYダウ平均先物や欧州株が急落すると、ランド/円は8.91円の安値を記録。しかし、直後にドル/円が1円以上急騰すると、連れて9.17円まで反発するなど、値動きの荒い展開となった。
- ② 6日、ロックハート・米アトランタ連銀総裁やドラギ欧州中銀(ECB)総裁の発言を受け、米欧の金融緩和観測が浮上。これを受けて株価が上昇すると、ランド/円は9.50円まで値を上げた。
- ③ 7日、欧州株の上昇や、バーナンキ米FRB議長の議会証言前、何らかの追加金融緩和策を打ち出すとの期待を背景に株高が進むと、ランド/円は9.67円まで上昇。しかし、議長は追加緩和の具体策については示唆しなかったため、緩和期待が後退してランドは反落した
- ④ 11日、米シティグループが同社で算出している世界国債インデックスに南アフリカ国債を組み入れる事を発表。これを受けてランド/円は小幅に値を上げたが、買いの勢いは続かなかった。
- ⑤ 13日、南ア4月小売売上高が前年比+1.0%と予想(+4.1%)を大きく下回った事を受け、ランド/円はわずかに弱含んだ。
- ⑥ 18日、ギリシャ再選挙で緊縮財政推進派の勝利が確実となった事を受け、同国のユーロ離脱懸念が後退すると、ランド/円は前週末終値から10銭以上上昇してスタートした。
- ⑦ 20日、南ア5月消費者物価指数が前年比+5.7%と予想(+5.9%)を下回った。8カ月ぶりにインフレ率が南ア準備銀行(SARB)の目標レンジ(年3~6%)内に収まったことで、一部ではSARBの利下げ観測が浮上。しかし、スペイン国債利回りの低下によるリスク回避の動きが和らいだ事や、米著名シンクタンクが内容は不明ながら日銀に絡む円弱気のレポートを流した事を背景に、ランド/円は5月15日以来となる9.73円の高値を付けた。
- ⑧ 21日、南ア第1四半期経常収支が1526億ランドの赤字と予想(1362億ドルの赤字)を上回る赤字幅が伝えられると、ランド/円はわずかに弱含んだ。その後は欧米株の下落を背景に一段安となった。
- ⑨ 25日、格付け会社フィッチがキプロスの格下げを発表。メルケル独首相が欧州共同債導入に否定的な見方を示した事も重なり、欧米株が大きく下落すると、ランド/円は9.33円まで値を下げた。
- ⑩ 29日、EU大統領の「欧州首脳はスペインの融資に関して返済の優先権を放棄」との発言を好感してアジアからNY市場にかけて株高が進むと、ランド/円は5月15日以来となる9.76円まで上昇した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

今月のポイント

6月のランド/円相場は8.91円～9.76円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約6.3%の上昇(ランド高・円安)となった。ギリシャの再選挙やスペインの銀行問題が一服した事を背景に、欧州債務懸念が和らいでリスク回避の動きが後退すると、月後半にかけて上昇した。

先月のランド/円の上昇率は約6.3%と、豪ドル(約7.3%)やNZドル(約8.5%)と比べ戻りが鈍い。背景には先月の南ア小売売上高が前年比で予想を大きく下回った事や、南ア消費者物価指数がSARBのインフレ目標の上限を下回った事を理由に、一部でSARBの次の一手は利下げとの見方が浮上していることが挙げられる。仮に今月、株価が反発局面を迎えたとしても、これを理由にランド/円の上昇率は豪ドル/円やNZドル/円よりも低くなりそうだ。

南ア国内では19日、金融政策発表が予定されている。前回の声明で「不確実性の高い環境では緩和的な金融政策の維持が適切」とした事や、前月の予想を下回る小売指標などを理由に、一部でSARBの利下げ観測が浮上しているが、現時点では金利据え置き予想が主流となっている。仮に事前の予想通り金利が据え置かれる場合、その際に発表される声明に市場の関心が移りそうだ。前回の声明ではランド安がインフレ見直しに対する主要な上ぶれリスクとの見方を示しており、欧州の混乱がさらに拡大しない限り、現時点ではSARBが追加利下げに踏み切る可能性は低そうだ。前回と比べSARBのハト派姿勢に変化が見られるか注目したい。(川畑)

(予想レンジ:9.30～10.50円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
7/2(月)	日銀短観	7/12(木)	日銀金融政策決定会合(11日～発表)
	6月米ISM製造業景況指数	7/13(金)	第2四半期中国GDP
7/5(木)	欧州中銀金融政策発表		7月米ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
	6月米ADP全国雇用者数	7/16(月)	6月米小売売上高
	6月米ISM非製造業景況指数	7/17(火)	米地区連銀経済報告(ページブック)
7/6(金)	6月米雇用統計	7/18(水)	6月南ア消費者物価指数
7/9(月)	5月日貿易収支		5月南ア小売売上高
	6月中国消費者物価指数	7/19(木)	SARB政策金利発表
	ユーロ圏財務相会合	23-31	6月南ア生産者物価指数
7/10(火)	6月中国貿易収支	未定	6月南ア貿易収支
7/11(水)	米FOMC議事録(6/19・20日分)		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。